



埼玉縣立上尾高等学校

令和2年度 第4号 令和2年7月22日(水) 発行

発行責任者 校長 林 昭雄

対話ができない授業、昼食や部活動の制限などがありますが、通常日課での学校生活が始まりました。東京への通勤者で混雑する時間帯を避けるため、9時20分にSHRを始める時差通学を継続しています。8時50分から9時10分頃に登校する生徒が多いようですが、7時30分前後には教室に電気がついています。お弁当作りなど朝の貴重な時間を使わせていただくことにもなりますが、この時間に登校し教室で学習している生徒も増えています。学校全体でというわけにもいきませんが、時差通学の趣旨を理解し、よく考えられた行動であると感じています。どんな目的でルールがつくられ、その目的に沿って自分の行動を考えると何ができるのか、何をしてもいいのか、こうしたことを考えられる生徒たち、これからの成長が実に楽しみです。

「おはようございます」の声に、少しずつ元気が戻ってきているのを感じ、うれしい気持ちです。教員は生徒の小さな変化で自分の気持ちが明るくなるものと改めて実感しました。また、昨年の後半にもお伝えしたように『手に英単語や参考書を持っている生徒』が増えているのも、うれしいことです。「主体的な学習者」になってほしいという思いを私たちは持っています。

何分あったら勉強するのか。こんな調査を行った会社がありました。その結果、学力と隙間時間の使い方は相関関係がありました。学力の高い学生は5分あったら勉強すると答える一方、30分ないと勉強する気になれないと答える学生もいたようです。後者の学生の学力は皆さんの予想通りです。

就職試験も、大学入試も日程が確定しました。2020東京オリンピックの開催が危ぶまれていたときに、アスリートは「2020年7月にピ

ークを持ってくるように4年間かけて調整してきた。いつに延期するのか、はっきりしていた方がいいかわかるのでありがたい」そんな話をしていました。目標から逆算して、今何をすべきか決めているのですね。今はめっちゃくちゃハードに追い込んで基礎体力を高める時期だとか、今は考えた戦略を遂行できるように必要なテクニックを身に付け磨く時期だとか、今はトレーニングしたことを実践で試す時期だとか・・・。今何をすべきか。3年生は先が見えていますか。

逆算して、「今何をすべきか」、です。

募集していた夏季休業中の進学補習は裏面のとおりの人数で実施されます。3年生小論文の個別指導には146人から申し込みがあり、一人一人に担当の先生が割り当てられました。人が変わるには、覚悟が必要で、その覚悟をさせてくれるのは「師」と「周囲にいる人」である。これは昔から現在に至るまで不変のことです。成功している人は環境や付き合う人を選んでいるようです。あまり努力しないで進む大学には、同じような思考の人が多く、残念ながら自身の進歩発展のための力になることがあまりありません。苦勞の末入った大学には、同じように苦勞してでも入学した人たちが集まっています。自身にとっても有益であることは言うまでもありません。

先日、県の教育長と教育委員が本校の視察にまいりました。本校生徒に対する印象を「元気があって礼儀正しい、一生懸命やるという姿勢が伝わってきました。」と評価してくださいました。

27日(月)からは期末考査が始まります。初見の問題は少ないので準備してきたかどうかが問われます。連休を有効に使ってください。